



4月の国内建設受注24%増 過去10年で最高

日本建設業連合会（日建連）が28日発表した2024年4月の国内建設受注額は、前年同月比24%増の1兆3795億円だった。プラスは2カ月連続。4月単月として過去10年で最高だった。民間と官公庁ともに好調で、資材価格の高騰が受注額を押し上げた。

受注額は加盟92社の合計。民間受注額は同22%増の1兆239億円だった。設備投資需要が好調だった。24年4月に残業時間の上限規制が導入され、建設会社は人員や下請け企業の確保などを踏まえて無理な受注を控えている。

製造業は37%増の2460億円。九州地方で電気機械業から600億円規模の工場の受注があった。非製造業は18%増の7779億円だった。近畿地方で300億円近くのデータセンター建設があったほか、関東地方では450億円超の再開発案件や250億円超のオフィスの受注があった。

官公庁からの受注額は33%増の3547億円だった。100億円超のダムを複数受注したほか、東京・日本橋で進む首都高速道路の地下化で1000億円超の工事の受注があった。



物流24年問題「影響出ている」、長野企業の42%

長野県は27日、県トラック協会や県商工会連合会などが集まる「物流2024年問題を克服するための意見交換会」を長野県庁で開いた。時間外労働の上限規制がトラック運転手にも適用されたのを受け、県内の対応状況や支援策について情報を共有した。

県産業労働部は県内の荷主事業者向けの調査結果を公表した。製造業と非製造業合わせて381社から回答が集まり、現状について「影響が出ている（出始めている）」との回答が42%に達した。

また「対応に取り組んでいる（今後取り組む予定含む）」が48%となった一方、「何から取り組んで良いのかが分からない」も21%いた。

行政などに求める支援策を複数回答で聞いたところ「高速道路料金の負担軽減」（30%）や「働きやすい職場環境整備など、ドライバー確保への支援」（28%）が目立った。運転手の休憩のために高速道路のサービスエリア（SA）やパーキングエリア（PA）におけるトラック駐車場の拡張を求める声もあった。

長野県の阿部守一知事は「2024年問題と言われているが、社会がより良い方向に変わるための過渡期の課題」と述べ、高速料金割引などに関し国に対する要請事項のとりまとめも意識していくとした。



日建設計、建築模型をバーチャル化 ビジョンプロ活用



日建設計はスタートアップのホロラボと組み、米アップルのゴーグル型端末「Vision Pro（ビジョンプロ）」を着けてバーチャルの建築模型を実在するかのように体感できるアプリを開発した。28日に報道陣に公開した。超高層ビルなど国内外で大型の建築物が増えるなか、設計時に模型の作り直しや改変の手間を減らす。



24年2月に米国で発売されたビジョンプロで動くアプリ「Whitemodel（ホワイトモデル、仮称）」を開発した。高解像度の映像で模型を表現し、縮尺を変更したり一部フロアだけを取り出したりできる。「細かい手すりなど模型では作りきれないデザインも表現できる」（同社）

コントローラーが不要で目線や手のジェスチャーで操作でき、ゴーグル型端末に不慣れな利用者でも扱いやすい。遠隔地にいる複数の利用者が仮想空間で一堂に会し、1つのバーチャル模型を前に議論することもできる。

6月にも建築プロジェクトの打ち合わせなどに使う。将来はホロラボによる外販向け製品化も検討する。



ウメモト インフォメーション






2024年 5 月 29 日 担当 ジョン

タイ給油所、カフェで稼ぐ



タイの給油所大手PTGエナジーが業態転換を急いでいる。今後3年で傘下のコーヒー店を5倍に増やし、売上高総利益に占める非石油事業の割合を現在の2割強から5割に高める。電気自動車（EV）の普及に伴う石油需要の減少が予想されるなか、成長分野のコーヒー事業で新規客を取り込む。

タイ石油大手3社のコーヒーチェーン

| カフェ名 | 運営企業 (店舗数) | 特徴 |
|--|-------------------|---------------------|
| アマゾン  | タイ石油公社 (4200) | 日本やラオスなど 海外進出に注力 |
| インタニン  | バンチャーク (1050) | 有機栽培の豆を 使用 |
| パンタイ  | PTGエナジー (1000) | 茶系飲料の豊富な 品ぞろえも強み |

(注)各社の店舗数は国内のみ



茶色の象をあしらったロゴが特徴のカフェ「パンタイ」。コーヒーは注文時に豆の焙煎（ばいせん）度合いを選べるのが売り物だ。毎朝通っているというバンコクの会社員プンさん（29）は「気分で味を変えているから飽きることがない」と話す。

パンタイはPTGが運営するコーヒー店だ。開業した2012年から毎年倍々で増え、24年4月には約1000店に達した。日本経済新聞の取材に応じたスックワサ副社長は今年400店、25年以降は年1000店前後増設する意向を明らかにした。27年には5000店まで増やす方針だ。

パンタイは全ての店舗でタイ北部産のコーヒー豆を使用しているのも特徴の一つ。スックワサ氏は「世界的な品質への評価が高い」と胸を張る。手ごろな価格も強みで、アメリカノなら1杯60バーツ（約260円）と、スターバックスの半額以下だ。

パンタイの新規出店の半数以上はPTGの給油所に併設するが、商業施設などにも展開する。地方間を移動する運転手と都市部の通勤客の両方の需要を見込む。

PTGは1988年に設立し、全国に2300ある給油所の運営や液化石油ガス（LPG）など燃料関連の事業を中心に展開している。23年12月期の連結売上高は1988億バーツで、最大手タイ石油公社（PTT）やバンチャークに次ぐ業界3位の規模となる。





PTGがカフェに力を入れている背景には石油中心の事業モデルでは持続的な成長が難しいとの懸念がある。

タイ政府は30年までにEVの生産比率を全体の3割に引き上げる計画を掲げており、「国内の消費者がガソリン車からEVに切り替える動きが加速すれば、給油所ビジネスは立ちゆかなくなる」（スックワサ氏）。

給油所間の競争激化が見込まれるなか、業界再編は活発化しつつある。米石油大手シェブロンは1月までにタイ国内の石油小売事業を、タイの石油精製大手スター・ペトロリアム・リファイニング（SPRC）に55億バーツ（約230億円）で売却した。

PTGの非石油事業は売上高総利益の2割強にとどまるが、27年までにこの比率を5割まで引き上げる。現在8割を占める石油事業は5割まで引き下げ、カフェを中心とした飲食業や小売業で稼ぐ事業への転換を目指す。

英調査会社ユーロモニターによると、タイのコーヒー市場は24年に約10億ドルと14年から4割超拡大した。消費者の所得向上とともに洗練された風味を求める傾向が強まっていることが要因といい、今後も年3%強のペースで拡大し続けると予想する。

PTGがカフェに注力するのはタイ特有の交通事情も大きく影響している。タイは東南アジア域内でも幹線道路の整備が進んでいるが、日本のサービスエリアのような休憩施設は少ない。

タイでは給油所がその代わりの役割を果たしている。給油所を取り囲むように駐車場が配置され、周辺に飲食店やコンビニが並んでいるのが一般的だ。パンタイもこうした店舗の一つとして、カフェの出店に力を入れている。

給油所がカフェ業態に力を入れる戦略は同業他社でもみられる。コンサルティング会社SBCSの長谷場純一郎副社長は「過去10年で自動車保有者の増加とともに給油所の休憩施設としての性格が強まっている」と分析する。

PTT傘下の「カフェアマゾン」はタイ最大手のカフェチェーンとして国内外で計約4600店を運営し、24年は300店超を増設する。バンチャークも「インタニン」のブランドで1000店超を運営している。



ウメモト インフォメーション



2024年 5 月 29 日 担当 ジョン

タイには世界的に有名なカフェチェーンも進出しているが、店舗数では給油所各社に遠く及ばず、スターバックスでも500店弱にとどまる。給油所が展開するカフェ店よりも単価が高いコーヒーの需要は都市部などに限られるとみられる。

一方、年間1000店舗前後の規模で新規出店するPTGは最大手のアマゾンに猛追するが、いかに他店と差異化するかが課題となる。

スックワサ副社長は給油所とパンタイで使える会員制カードが顧客獲得のカギとみる。毎月10杯まで半額で飲料を提供する点など他社にはない特徴を売り物にしており、給油所とカフェの利用を促す流れをつくっていくという。

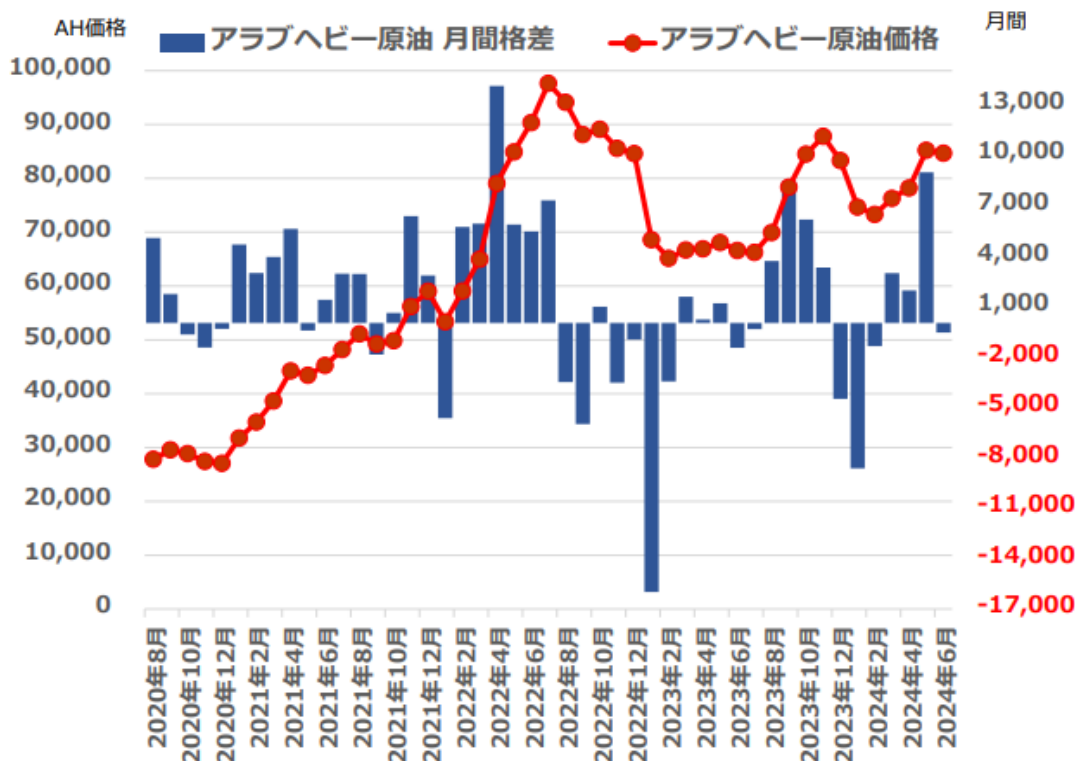


③ストレートアスファルト価格・需給動向

原油価格動向

アラブヘビー原油価格動向

単位：円/トン



出所:市場情報を基にリム情報開発が作成

※AH原油の価格は、リム情報開発のドバイ原油とオマーン原油の平均値にサウジアラビア国営サウジアラムコが毎月公表するAH原油の公示販売価格(OSP)を加えたものを採用。ストレートアスファルトの販売価格に使われるAH原油は、販売する月の前々月21日～前月20日までの平均値が参照される。価格および価格差は、卸販売の対象月が対象。

ストレートアスファルト(以下、ストアス)を取り引きする際に指標となるサウジアラビア産アラブヘビー原油(AH)は、6月の卸販売価格に適用される4月22日～5月20日の平均価格が、85.95ドルと前月比でバレルあたり2.43ドル、円建て価格がトンあたり84,658円と同562円ともに下落した。5月下旬にかけてドバイ原油に対して売りが進んだことから、AHのドル建ての下げ幅が広がった。



ENEOS仕切り価格

| ENEOS ストレートアスファルト仕切り価格 (対前月比) | | | | | | | | | | | | | 単位: 円/トン |
|-------------------------------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|---------|--------|-------|----------|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 通期 |
| 2021年度 | 10,000 | — | 1,000 | 4,000 | 3,000 | ▲1,000 | 1,000 | 6,000 | 3,000 | ▲5,000 | 5,000 | 7,000 | 34,000 |
| 2022年度 | 13,000 | 6,000 | 6,000 | 7,000 | ▲3,000 | ▲7,000 | 1,000 | ▲3,000 | ▲1,000 | ▲16,000 | ▲4,000 | 1,000 | 0 |
| 2023年度 | 1,000 | 1,000 | ▲1,000 | — | 4,000 | 8,000 | 6,000 | 3,000 | ▲4,000 | ▲9,000 | ▲2,000 | 3,000 | 10,000 |
| 2024年度 | 2,000 | 7,000 | — | | | | | | | | | | 9,000 |

出所:市場情報を基にリム情報開発が作成

※ENEOSは、AH原油価格の月間格差が1,000円以上変動した場合に卸販売価格を変更し各社へ通達する。月間格差が1,000円に達しない場合でも、過去の価格変動を累積加算してその水準が1,000円を上回った場合にも卸価格を変更する。

ENEOS、6月の卸販売価格は前月比で据え置き

ENEOSは、6月のストアスの卸販売価格を5月から据え置いた。6月の卸販売価格に適用されるAHの価格が、前月から562円の下げにとどまったことをENEOSが考慮したようだ。

期間中のドバイ原油の相場は、4月下旬に一時、90ドル近い水準へと上昇した。イスラエル軍がガザ地区南部ラファで地上部隊による攻撃を拡大する姿勢を強めるなど、中東情勢が緊迫したことを受けた。しかし5月入り後は一転して下落に転じ、下旬にかけて83～85ドル台へと軟化した。石油輸出国機構(OPEC)と非加盟国で成るOPECプラスのロシアなど一部産油国が6月の会合で、協調減産を緩和して増産に踏み切るとの見方が台頭したこともあり、売りが進んだ。一方、対象期間中の為替(TTS)は、155円前後～159円前後での推移と、前月に比べ円安傾向が強まった。大手道路舗装会社は6月の卸販売価格に関して、1,000円の下げを視野に入れていたと指摘したうえで「累積変動額が小幅な上げだったため、最終的に横ばいになったのではないかと伝えた。

出光興産も6月の卸販売価格を5月から横ばいとした。出光興産はAHに加えて、ドバイ原油を中心とした複数の中東産中・重質原油の値動きを、卸販売価格を決める際の参考としている。



週間原油コストの推移

| | 期間 | 原油相場 | | 為替レート(▲は円高) | | 円建て原油コスト | |
|-------------|-----------|--------|--------|-------------|--------|----------|--------|
| | | ドル/バレル | 前週比 | ドル/円 | 前週比 | 円/ℓ | 前週比 |
| 火曜日～ 月曜日 | 4/16～4/22 | 89.44 | ▲ 1.80 | 155.65 | 1.98 | 87.56 | ▲ 0.62 |
| | 4/23～4/29 | 89.68 | 0.24 | 156.25 | 0.60 | 88.13 | 0.57 |
| | 4/30～5/6 | 86.49 | ▲ 3.19 | 158.00 | 1.75 | 85.95 | ▲ 2.18 |
| | 5/7～5/13 | 84.54 | ▲ 1.95 | 156.28 | ▲ 1.72 | 83.09 | ▲ 2.86 |
| | 5/14～5/20 | 84.51 | ▲ 0.03 | 156.66 | 0.38 | 83.27 | 0.18 |
| | 5/21～5/27 | 83.54 | ▲ 0.97 | 157.75 | 1.09 | 82.88 | ▲ 0.39 |
| 水曜日～ 火曜日 | 4/17～4/23 | 88.88 | ▲ 2.27 | 155.73 | 1.57 | 87.05 | ▲ 1.33 |
| | 4/24～4/30 | 89.89 | 1.01 | 156.76 | 1.03 | 88.62 | 1.57 |
| | 5/1～5/7 | 85.62 | ▲ 4.27 | 157.07 | 0.31 | 84.58 | ▲ 4.04 |
| | 5/8～5/14 | 84.53 | ▲ 1.09 | 156.73 | ▲ 0.34 | 83.32 | ▲ 1.26 |
| | 5/15～5/21 | 84.55 | 0.02 | 156.69 | ▲ 0.04 | 83.32 | 0.00 |
| | 5/22～5/28 | 83.32 | ▲ 1.23 | 157.84 | 1.15 | 82.71 | ▲ 0.61 |

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート